

内閣官房

安全保障・危機管理強化のための情報収集衛星の開発等

平成29年度補正予算案 13,491百万円（平成29年度予算額 61,951百万円）

内閣官房
内閣衛星情報センター

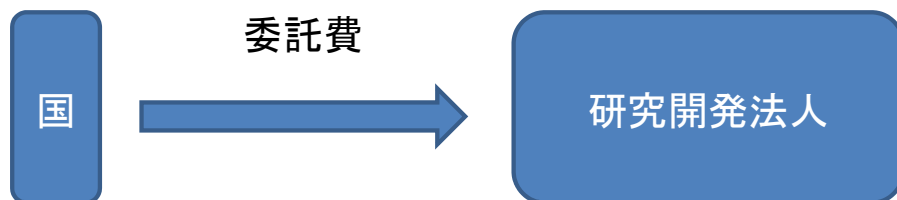
事業概要・目的

- 北朝鮮によるミサイル発射の活発化等に対応するため、情報収集能力の強化が極めて重要になります。このため外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を行います。
- 情報収集衛星システムの機能の拡充・強化に資する以下の施策を実施します。
 - (1) 情報収集衛星光学7号機、光学8号機、レーダ7号機、レーダ8号機、データ中継衛星及びデータ中継衛星地上システムの開発体制の強化
 - (2) 打上げ用ロケット（データ中継衛星）の検査体制の強化

事業イメージ・具体例

- 情報収集衛星光学7号機、データ中継衛星についてはサブシステム試験の早期実施、光学8号機、レーダ7号機及びレーダ8号機については開発に必要な部品・材料等の早期調達を行い、製作・試験を可能な限り早期に実施します。
- データ中継衛星地上システムの開発における受信用アンテナの作業工程等を見直し、試験を可能な限り早期に実施します。
- データ中継衛星の打上げ用ロケットの製造・検査工程の前倒しを実施し、部品の検査工程の時間を十分に確保することで、検査体制を強化し、確実なロケットの打上げを行います。

資金の流れ



期待される効果

- 衛星等の開発におけるスケジュール遅延リスクを低減し、後継衛星の開発・打上げスケジュールを早めます。
- 衛星の確実な開発・打上げにより、必要な情報の収集を確実にし、安全・安心な社会の実現に貢献します。

情報収集衛星の開発・運用事業費

平成30年度予算案 62,001百万円 (平成29年度予算額 61,951百万円)

内閣官房
内閣衛星情報センター

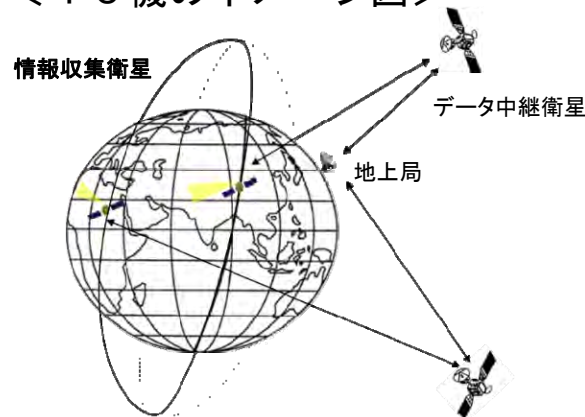
事業概要・目的

○外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的とした情報収集衛星の開発等を行い、政府の情報機能を強化します。主に以下の施策を実施します。

- (1) 「基幹衛星」4機に、「時間軸多様化衛星」4機及び「データ中継衛星」2機を加えた合計10機の整備を目標とし、着実に衛星開発を進めます。
- (2) 即時性の向上やデータ量の増加に対応した地上システムの開発を進めます。
- (3) 情報収集衛星システムの機能・性能の抜本的向上のため、重要技術の先行研究開発を進めます。

事業イメージ・具体例

<10機のイメージ図>

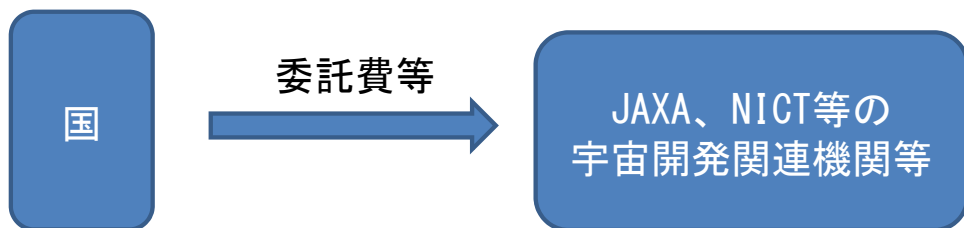


- ・光学衛星4機
- ・レーダ衛星4機
- ・データ中継衛星2機

<撮像要求から分析・配布の流れ>



資金の流れ



期待される効果

○外交・防衛等の安全保障及び危機管理のために必要な情報の収集を確実にし、安心・安全な暮らしの実現に貢献します。